

愛別町 あいべつちょう



役場所在地 北海道上川郡愛別町字本町 179 番地
郵便番号 078-1492
電話番号 (01658) 6-5111
FAX番号 (01658) 6-5110
市町村コード番号 014567
市町村別類型 I-0
交通機関 石北本線愛別駅から徒歩10分
ホームページ <http://www.town.aibetsu.hokkaido.jp>

〔地 勢〕

上川総合振興局管内のほぼ中央部に位置し、上川盆地の東北端大雪山麓にあって、東は上川町、西は比布町、南は当麻町と接し、北は天塩山脈を堺として土別市に接している。東西 21.4 km、南北 22.4 km、面積 250.13 ㎢で町の中央を石狩川と愛別川が流れ、海拔 200m前後の両河川の流域一帯は、肥沃な農業地帯となっている。また、面積の 80%以上を占める山林は、自然の緑が美しく、豊富な林産物を産出している。

〔歴 史〕

明治 27 年に石狩川、愛別川をはさんで愛別原野植民地区画が測定され、貸付告示が行われた。翌 28 年に和歌山県人で構成された 70 戸が金富農場へ団体移住してきたのをはじめ、同年に岐阜県人 55 戸、愛知県人 50 戸の団体が伊香牛（現愛別地区）、中愛別原野（現豊里、中央地区）に移住した。その後、他県からの入植者が次第に増加し村落を形成するに至った。当時愛別原野は鷹栖村及び永山村に属していたが、明治 30 年に鷹栖村の東北部と永山村の東部を分割して総面積 129,800ha を有する広大な愛別村が誕生し、移住者が相次ぎ人口は急激に増加した。大正 11 年には国鉄石北線の一部新旭川、愛別間が開通し、農産物、林産物の輸送拠点として発展した。大正 13 年に東部を上川村（現上川町）に分村した。明治 30 年に愛別村戸長役場設置以来、昭和 22 年 11 月開村 50 周年記念、昭和 36 年 8 月 1 日町制施行、昭和 39 年開基 70 周年記念に伴い庁舎の新築、中学校の統合と校舎新築と幾多の節目を迎えながら農業を中心とした町として発展を続け、平成 6 年に開基 100 周年記念式典を、平成 26 年に開拓 120 周年記念式典を終了している。

〔町政のあゆみ〕

明治 30 年	鷹栖永山村から分村、戸長役場設置	〃	3 年	研修館サンライズ完成	
〃	39 年	2 級町村制施行、第 1 回村議会選挙	〃	5 年	親水緑地公園完成
昭和 12 年	1 級町村制施行	〃	6 年	開基 100 周年記念式典開催	
〃	36 年	町制施行「愛別町」となる	〃	8 年	高齢者生活福祉センター完成、オートキャンプ場完成
〃	38 年	愛別中学校統合	〃	9 年	富沢衛生センター（愛別町外 3 町）完成、なめこ培養センター完成
〃	43 年	道営ほ場整備事業着手	〃	10 年	郷土芸能伝承館完成、リサイクルセンター（愛別町外 3 町）完成
〃	46 年	町総合センター完成	〃	12 年	蔵 K U R A R A ら完成
〃	48 年	愛別町外 3 町塵芥処理場操業開始	〃	15 年	特別養護老人ホームいこいの里あい完成
〃	49 年	簡易水道完成、上川中部消防組合設立	〃	19 年	愛別中学校全面改修
〃	51 年	愛別高校定時制閉課、母と子の家完成	〃	22 年	愛別小学校統合
〃	52 年	農業研修センター完成	〃	23 年	ケーブルネット愛別（有線音声放送）運用開始
〃	54 年	北町、南町、東町、金富の一部字名改正	〃	26 年	北海道美深高等養護学校あいべつ校開校、開拓 120 周年記念式典開催、中井延也石の彫刻公園完成
〃	55 年	愛別高校道立移管、愛別小学校改築	〃	28 年	全道町村初となる飲酒運転根絶条例制定
〃	56 年	地籍調査開始、老人福祉センター完成	〃	29 年	愛別地区国営緊急農地再編整備事業開始
〃	57 年	愛別ダム本体着工、旭山公区解散	〃	30 年	北海道胆振東部地震発生、愛別町震度 3 を観測
〃	59 年	町営バス（協和線）運行開始	令和 2 年	国民健康保険愛別町立診療所完成	
〃	60 年	愛別スポーツ公園造成着工、金富公民館完成	令和 4 年	小中学校スクールランチ導入	
〃	61 年	愛別診療所完成、愛別ダム完成（狩布湖）	令和 5 年	幼保連携型認定こども園設立	
〃	62 年	民間飛行場完成		新鉱物「北海道石」が発見される	
〃	63 年	農村環境改善センター完成、B & G 愛別海洋センター完成			
平成元年	愛別球場完成				
平成 2 年	町有飛行機購入、公共下水道使用開始				

〔行政施策の重点事項〕

昭和 45 年度～昭和 49 年度を第 1 次とする総合計画（愛別町振興計画）を策定して以来、現在は令和 2 年度～令和 6 年度までの第 11 次振興計画を策定しており、①健やかでやさしい愛別（健康・福祉・子育て分野）②安全・安心で快適な愛別（生活環境分野）③豊かで活力に満ちた愛別（産業分野）④人と文化が輝く愛別（教育・文化分野）⑤明日への基盤が整った愛別（生活基盤分野）⑥力を合わせてつくる愛別（共生・協働・行財政分野）の 6 つを基本目標とし、「子どもの笑顔かがやく 恵みの大地 あいべつ」を将来像として掲げ、『子ども』・『活力・交流』・『人と人とのつながり』をキーワードとしたまちづくりを進めている。

〔行政管理の特色〕

1. 人件費の抑制 職員定数を削減し人件費の抑制を図るとともに機構の簡素化を図る、事務の効率化を推進している。
2. 物件費の抑制と効率的運用 経常経費を節減するために物件費をはじめとして徹底した見直しを図り、共通経費の効率化を図っている。
3. 事務の合理化 情報化時代に対応するため、税務、給与及び住民記録等を中心とした上川管内電算事務共同処理協議会に加入し、共同処理するとともに、庁舎内においても、財務会計、健康管理、住宅管理等システムを導入し、事務処理の電算化を推進している。

〔財政の概況〕

基幹産業である農業生産の基盤整備と福祉文教施設及び道路等の生活環境整備に努めた結果、地方債残高が増加し、歳出に占める公債費率も上昇し財政運営が硬直化してきたが、財政再建努力により好転している。しかし、地方交付税に依存する状況は変わらず、財政運営に苦慮している。

〔主な公共施設〕

高齢者生活福祉センター、塵芥処理場（50t/日処理）、リサイクルセンター、火葬場、農村環境改善センター、総合センター、老人福祉センター、母と子憩いの家、農業研修センター、生活改善センター、青少年会館、公民館、保育所、公立幼稚園、小学校、中学校、研修館サンライズ、郷土芸能伝承館、コミュニティホール（蔵KURARAら）、野球場、山村広場、親水緑地公園、北町農村公園、オートキャンプ場、パークゴルフ場、診療所

〔産業・経済〕

明治28年の入植以来、薄荷や菜種を中心とした畑作の町として開拓し、園が、圃場整備等により畑作水稻農業へと転換し発展した。しかし、1戸当たりの耕作面積が少なく、農業の生産性向上と省力化を図るため、育苗からライスセンターまでの一貫した共同作業体系を取り入れた。また、国の生産調整により、昭和47年からきこの栽培に取り組み、米、野菜、畜産、きのこといった複合経営を推進し、農家所得の向上を目指した。特に、えのき茸を中心として道内有数のきこの生産地となり、現在のきこの生産額は約16億円、町の特産品として確固たる地位を築いた。更に健康食品として疲労回復、美肌、免疫力を高める効果があるきこの消費拡大に務めている。

工業は町面積の84%を占める広大な森林資源を活用した木材の製材、集成材などの工場が有り、またコンクリート製品の製造工場がある。

昭和62年より、町内の青年有志による「きこの里フェスティバル」が9月2日曜日に開催され、多数のボランティアによる協力で盛大に実施され、直径3.5mの大鍋による「きこの汁」、「愛別産米」の大釜と薪による「百姓一揆」炊き、愛別町産きこの牛肉が食べられるコーナー等、多くの来場者に喜ばれている。

〔文化・観光〕

市街地から車で5分、旭川国際カントリークラブ愛別コースは、北海道の屋根大雪山連峰をバックにそのダイナミックなコースは道内でも名高い。蓬来山は市街地に接し、桜とつつじの名所として知られている。また、石狩川に沿って柱状節理のすばらしい景観の石垣山があり、ここは十勝アイヌと石狩アイヌの古戦場跡といわれ、矢尻、石器類も出土している。ここには、松浦武四郎が石狩川上流探検の際、一泊したという大岩もあり、絶好のハイキングコースとなっている。安足間駅裏には百田宗治詩碑があり、今でも氏を慕う安足間在住の有志により平成23年まで毎年宗治祭が催されている。

また、明治28年に岐阜県大野郡荘川村からの入植者らにより伝えられた郷土芸能岐阜獅子神楽が今も踊り継がれている。国道39号線沿い石狩川左岸愛山地区にはオートキャンプ場が、また右岸中央地区にはパークゴルフ場が整備され、道内外からの観光客でにぎわっている。市街地に開設されたコミュニティホール「蔵KURARAら」は、町民の交流・イベント・発表会と幅広く活用されている。

令和5年に古い鉱山跡から世界初となる新鉱物「北海道石（ほっかいどうせき）、学名：hokkaidoite（ホッカイドウアイト）」が発見された。北海道石は、炭素及び水素のみよりなる有機化合物「ベンゾ[ghi]ペレリン」の天然結晶であり、紫外線を照射すると美しく蛍光する希少な鉱物である。

〔宿泊施設〕

湯元協和温泉は市街地から5km、緑の山に囲まれた静かな温泉として近郊の人はもちろんのこと道内各地から湯治客が訪れる。収容人数150人、季節の山菜料理やきこの料理はこの温泉の自慢の一つで各種慢性疾患に効能のある湯とともに一度は味わってほしい。TEL（01658）6-5815

研修館サンライズは、5名以上の研修目的をもった団体を対象に利用でき、周辺にある各種体育施設を活用した研修に利用している。TEL（01658）6-4450

上川町 かみかわちょう



役場所在地 北海道上川郡上川町南町180番地
郵便番号 078-1753
電話番号 (01658) 2-1211代表
FAX番号 (01658) 2-1220
市町村コード番号 014575
市町村別類型 I-2
交通機関 石北本線上川駅から徒歩5分
ホームページ <https://www.town.hokkaido-kamikawa.lg.jp/>

〔地勢〕

やや東よりではあるが、北海道の中央部に位置し、有名な大雪山国立公園の北方部を擁している。東にニセイカウシュッペ山(1,878.9m)がそびえ、北は間近に天塩岳を控え、南西には大雪山連峰の赤岳(2,078m)、黒岳(1,984m)、桂月岳(1,983m)、凌雲岳(2,125m)などの高峰が連なり、層雲峡温泉、大雪高原温泉、愛山溪温泉の3温泉を有している。周囲を山岳に取り囲まれた農林業と観光の町である。

〔歴史〕

安政4年(1857年)3月、石狩役所在勤の足輕松田市太郎が、箱館奉行から石狩川水源探検の命を受けて石狩川上流を踏破し、これが本町に人跡を記した始まりである。その後、松浦武四郎、高畑利宣、米人ライマン、松本十郎らの探検を経て、明治22年に旭川と網走を結ぶ北見道路が起工され、明治24年に全線開通して同年越路駅通所、翌25年に中越駅通所が設置された。明治28年、宮城県人の本田喜市が越路地区に初の開拓者として入地、開拓の鋤をおろした。その後、順次入地が行われ、大正5年の清川地区入地を最後として、開拓は一段落をつけ、ほぼ現在の集落が形成された。大正12年11月に国鉄石北線が延長されて上川駅が開設し、翌13年1月、待望の分村が実現して上川村が誕生した。時に戸数750戸、人口4,112人であった。

昭和2年には安足間発電所が建設され、水資源開発が緒につき、昭和4年には天幕駅、中越駅、上越駅が開駅した。昭和27年9月に町制が施行され、昭和31年から町総合開発計画を樹立して、町民協働による計画的な町づくりを進め、現在に至っている。

〔町政のあゆみ〕

大正13年	1月1日上川村独立	平成14年	中高一貫教育スタート
昭和27年	9月1日町制施行	〃 18年	武華トンネル(国道39号)開通、高規格幹線道路旭川紋別自動車道「愛山上川IC～上川天幕IC」間開通
〃 30年	町章制定、開基60周年記念式	〃 20年	第9次総合計画樹立、たべもの交流館オープン、流星・銀河の滝休憩舎「滝ミントラ」オープン
〃 31年	町総合開発第1次5カ年計画樹立	〃 21年	町立病院を診療所と介護老人保健施設に転換
〃 34年	新市街地2実施	〃 24年	層雲峡・大雪山写真ミュージアムオープン
〃 39年	町民憲章制定、町敬老年金制開始	〃 25年	大雪森のガーデンレストラン&ヴィラ「フラテッロ・ディ・ミクニ」森の花園エリアオープン
〃 46年	役場新庁舎完成	〃 26年	大雪森のガーデンセンターハウスオープン、大雪森のガーデン森の迎賓館エリアオープン、定住自立圏構想に基づく協定締結(旭川市ほか周辺8町)
〃 47年	ボンモシリ開園、国道273号線	〃 27年	大雪森のガーデンをメイン会場に「2015北海道ガーデンショー」開催
〃 48年	福祉会館・公民館併設オープン	〃 28年	アイヌ伝統住宅「チセ」完成、北海道ガーデンショーリバイバル2016開催
〃 51年	層雲峡青少年旅行村オープン	〃 29年	黒岳ロープウェイ開業50周年記念式典開催、給食センター新築完成
〃 53年	上川小学校新築落成	〃 30年	第10次上川町総合計画策定、「上川アイヌ」日本遺産認定、給食センター新築稼働開始
〃 54年	中央保育所新園舎完成	令和元年	大雪かみかわスクモオープン、いきいきセンターたいせつの絆オープン
〃 55年	愛山溪青少年の家完成	〃 2年	層雲峡紅葉谷園地(旧日赤分院跡地)供用開始
〃 56年	第6次総合開発計画樹立	〃 3年	層雲峡インフォメーションセンターオープン、層雲峡オートキャンプ場通年型コテージ冬季営業開始
〃 57年	上川中学校新校完成、地場産品流通PRセンター完成	〃 4年	ふるさとづくり大賞(地方自治体賞)受賞
〃 59年	エスポワールの鐘完成、ロッキーマウンテンハウス町(カナダ)姉妹友好提携		
〃 60年	新潟県東蒲原群上川村姉妹友好提携		
〃 63年	国際観光の街宣言、第7次町総合開発計画樹立、層雲峡地公共下水道供用開始		
平成元年	町立病院改築		
〃 2年	社会福祉センター完成、防犯の町宣言		
〃 6年	開基百年記念式典		
〃 9年	かみんぐホール完成		
〃 10年	第8次町総合計画樹立、層雲峡観光総合コミュニティセンター完成		
〃 12年	層雲峡ビジターセンターオープン		
〃 13年	層雲峡プラン65、黒岳沢流路工完工、層雲峡パークゴルフ場オープン		

〔行政施策の重点事項〕

小さくても「夢・希望・誇り」に満ちた上川を目指して、健やかで心ふれあうまちづくり、安全・安心して環境にやさしいまち

づくり、魅力と活力ある元気なまちづくり、豊かな自然環境と共生するまちづくり、郷土に誇りをもった心を育むまちづくり、みんなで創る協働のまちづくりを進めていく。

〔行政管理の特色〕

近隣7町で構成する電算協議会において、税の賦課事務としての税額計算、納税通知書作成、各種集計表、課税台帳作成等の共同処理を行っている。また、医療センターに電子カルテシステムを導入し、センター内での患者情報の共有化を図り、きめ細かな治療や処方箋の発行など事務処理において効率化を図っている。ほかに、4町でごみの共同処理の一部事務組合を構成して、行政事務の効率化を図っている。

〔財政の概況〕

景気回復と人口減少の緩和のため、積極的な財政運営を行ってきたが、高齢化などによる税収の落ち込みには歯止めがかからない状況にあるため、「歳入に見合った歳出」を基本原則としながら、地域の特徴を生かした観光産業、農業などの活力ある更なる振興を図り、今後の財政運営に生かすよう努めている。

〔主な公共施設〕

1. 総合体育館 「町民皆スポーツ」を目指して昭和56年に開館した。1,500㎡のアリーナをはじめ、トレーニングルーム、幼児遊戯室を備え、社会体育の振興に貢献している。

2. その他 上川医療センター、介護医療院つつじ苑、保育所、層雲峡観光総合コミュニティーセンター、青少年旅行村（層雲峡オートキャンプ場）、中山スキー場、社会福祉センター、かみんぐホール、保健福祉センター、層雲峡パークゴルフ場、たべもの交流館、流星・銀河の滝休憩舎、層雲峡・大雪山写真ミュージアム、フラテッロ・ディ・ミクニ、大雪森のガーデンセンターハウス、層雲峡黒岳の湯、いきいきセンターたいせつの絆（上川町いきいき福祉健康施設）、大雪かみかわヌクモ（起業促進及び誘客交流施設）、層雲峡インフォメーションセンター

〔産業・経済〕

1. 農・林・水産 平坦地は稲作の安定性、生産性を維持、増進するため「もち米生産団地」を形成し、低コストと安定的な生産に努めている。稲作不安定地帯については、開発整備を行い酪農、肉用牛の大型経営群を創設育成し、合理的な濃密生産団地により、畜産物の安定的な供給基地として発展している。畑作については冷涼な気候条件を生かした大根、馬鈴薯など特産野菜の開発研究と生産団地作りに努めている。また、水資源にも恵まれていることから、ニジマス・ヤマベなどの淡水魚の養殖が行われている。

2. 商 業 過疎対策と潜在労働力の活用を図るため観光と結びついた商業活動を行っている。

〔文化・観光〕

層雲峡温泉 大雪山連峰とニセイカウシュッペ山の間を削って流れる石狩川が、延々24kmの断崖をきざみ、神削壁と呼ばれる高さ160mの柱状節理が、天を圧してそびえ立っている。また、断崖のいたるところから、数10mの滝が落下し、石狩川の清流となっている。

大雪高原温泉 層雲峡から約28km奥地の名勝地で裏大雪の山塊標高1,300mの所にある。

愛山溪温泉 大雪山連峰の永山岳のふもとにあり、療養地として知られている。またここは、層雲峡、高原温泉とともに、大雪山連峰の登山口となっている。

〔宿泊施設〕

上川町は層雲峡温泉、愛山溪温泉、高原温泉の3つの温泉を有し、ホテル、民宿など19軒の宿泊施設がある。問い合わせは層雲峡インフォメーションセンター TEL (01658) 5-3350

東川町 ひがしかわちょう



役場所在地 北海道上川郡東川町東町1丁目16番1号
郵便番号 071-1492
電話番号 (0166) 82-2111
FAX番号 (0166) 82-3644
市町村コード番号 014583
市町村別類型 II-0
交通機関 旭川空港から車で10分、旭川駅から旭川電気軌道バス 学校前停留所下車徒歩2分
ホームページ <https://higashikawa-town.jp/>

〔地 勢〕

北海道のほぼ中央に位置し上川管内に属しており、東は大雪山連峰の最高峰旭岳(2,291m)を擁し白雲岳に至り、上川町と境界し、北はキトウシ山系沿いに、西は南北に走る線で旭川市に隣接し、南は忠別川に沿って美瑛町、東神楽町と境をなしている。平野部は石狩川水系の忠別川と倉沼川によって開けた扇状地形であり、水利に恵まれた土地で年々良質米を産しており、また大雪山国立公園を含む雄大な観光地を有している。

〔歴 史〕

明治28年、人跡未踏の大原野に、香川県人30余戸、富山県人団体10余戸、阿波団体数戸、少し遅れて愛知県人の入植により開拓の第1歩が始まった。明治30年に旭川村より分割して東川村と称した。明治42年4月に東旭川村との組合役場を分離し独立の2級町村となった。大正8年4月1級町村となり、昭和34年8月に町制が施行された。

豊富な土地資源と水利資源に恵まれ、明治30年頃より、畑から水田に移行し始め、明治43年までに開耕された田畑は2,000haであった。その後、幾多の冷害凶作に耐えながら治山、治水及び水稲の品種改良等に努め、昭和37年には農業近代化の促進を図るため構造改善を中身とするほ場整備事業に着手、12年の歳月を経て全道に先がけて完工し、現在、水田3,120ha、畑518haの米作を中心とした農業の町である。また、明治30年、松山多米蔵が天人峡温泉を、阿久津啓吉が勇駒別温泉(現旭岳温泉)をそれぞれ発見し、以来、観光開発が進み、大雪山の雄大壮麗な自然をバックに観光地として発展した。昭和60年には、世界で初めて「写真の町」を宣言。それ以来、毎年「国際写真フェスティバル」や「写真甲子園」を開催し、世界的にその名が知られるようになった。「写真の町」宣言から30年が経過した2014年、町は新たに「写真文化首都」を宣言。「写真文化」に加え、それとともに育んできた「家具デザイン文化」「大雪山文化」の文化活動を中心に、国内外の交流をさらに増やし、過疎でも過密でもない、ほどよい「疎」のある「適疎の町」を目指している。

〔町政のあゆみ〕

明治28年	香川・富山・愛知・徳島県人の入植	平成8年	保健福祉センター完成、旭岳下水道供用開始
昭和25年	国民健康保険診療所開設	〃 9年	第2期新まちづくり計画の策定
〃 39年	町民憲章制定	〃 11年	大雪遊水公園オープン
〃 43年	第1次町づくり5ヶ年計画の発足	〃 12年	町立診療所完成、インフォメーションセンター「道草館」完成
〃 46年	旭岳温泉に町営えぞ松荘オープン	〃 14年	幼児センター完成、第3期新まちづくり計画策定
〃 48年	大雪消防組合東川支署発足する	〃 16年	大雪旭岳源水完成
〃 49年	ほ場整備事業完工、天望閣完成	〃 19年	プライムタウンづくり計画21-Iの策定
〃 52年	東川高等学校道立移管、町民運動公園完成	〃 22年	共生サロン完成
〃 54年	農村環境改善センター完成	〃 23年	第3地区地域センター完成、ふるさと交流センター完成
〃 56年	役場庁舎改築完成	〃 24年	プライムタウンづくり計画21-IIの策定
〃 57年	特別養護老人ホーム開園、郷土館オープン、羽衣公園完成	〃 25年	「写真文化首都」宣言
〃 59年	石狩川忠別ダム建設着工、家族旅行村工事着工	〃 26年	定住自立圏構想に基づく協定締結(旭川市ほか周辺8町)、旭川地域企業誘致東京サテライトオフィス(旭川市、東川町、東神楽町、鷹栖町の1市3町)開設、東川小学校新校舎及び地域交流センター完成
〃 60年	全国初の「写真の町」宣言	〃 27年	東川町立東川日本語学校開校、東川町防災宿泊センター完成
平成元年	キトウシ家族旅行村オープン完成、文化ギャラリー完成	〃 28年	東川町文化芸術交流センター完成
〃 2年	デイ・サービスセンターオープン	〃 29年	映画『写真甲子園0.5秒の夏』全国公開
〃 3年	B&G財団東川海洋センター完成	〃 30年	せんとぴゅあII完成、プライムタウンづくり計画21-IIIの策定
〃 4年	西部地区コミュニティセンター完成、東川新まちづくり計画の発足		
〃 5年	第1地区コミュニティセンター完成		
〃 6年	第2地区コミュニティセンター完成、開拓百年式典、第1回写真甲子園開催		
〃 7年	旭岳ピュアセンター完成		

〔行政施策の重点事項〕

「人と自然がおりなす 輝きの大地 ひがしかわ」を基本理念に、「人間」、「資源」、「財源」の確保と循環を図るとともに、誰もがいつまでも快適に東川町で暮らすことができる「ダム機能」、東川町への多様な交流を生み出す「ハブ機能」、老若男女が集い、語り、学び、創(つく)り、楽しむことができる「キー機能」の創出を核に、創造的で持続する町づくりを進めます。

1. 人と文化を育むまちづくり ～人づくり～

まちづくりの原点は「人づくり」であるという観点から、輝きのある人と本町の特徴的な地域資源である写真文化、大雪山文化、家具デザイン文化中心とした文化を育成し創造的でたくましい人づくりを目指す。

2. 人にやさしく健康を支えるまちづくり ～安心・安全なくらしづくり～

町民が健康で安心して暮らせるよう、「健康の増進」をキーワードに思いやりとやさしさに満ちたまちづくりを進める。保健・医療・福祉の各サービスの相互連携と充実、クリーンで安全・安心・快適な環境づくりに努める。

3. 人と自然が共生するまちづくり ～美しい環境づくり～

自然環境の保全や個性的な景観づくりを進めるとともに、快適な環境づくりや利便性の確保、安全な環境づくりなどの施策を計画的に推進する。

4. 経済基盤豊かなまちづくり ～活力ある産業づくり～

農業・林業・商業・観光など各産業分野の基盤整備や振興育成を図るとともに、連携と交流を深め、新たな時代の産業振興対応できるよう技術・情報・人材育成等の取組の充実を図る。また、「写真の町」、「写真甲子園」事業の積極的な推進に努める。

5. 参加と対話で築くまちづくり ～コミュニティづくり～

広報・広聴体制の充実、高度な情報通信システムの整備を検討し、町民の理解と関心を高めるとともに、情勢の社会進出しやすい環境づくり、コミュニティ活動の高揚を計り町民参加のまちづくりを推進する。

〔産業〕

農業 道内屈指の米どころで、農地面積 2800ha のうち 90%で米作が行われている。施設野菜、高原野菜なども 20 種類以上生産し、耕作放棄地はゼロ。2012 年に地域団体商標登録された道産ブランド米「東川米」など農作物の高付加価値化に向けた基盤整備に取り組んでいる。

商業 ここ数年は、おしゃれなカフェのまちとして注目される。アウトドアショップ大手「モンベル」が路面店を開いた 2012 年頃から、素材や製法にこだわった飲食店、雑貨店などの開店が相次ぐ。町の起業化支援制度を利用した新規開業は、2003 年以降 96 件に上る。

工業 木工業が盛んで、日本三大家具といわれる「旭川家具」の約 30%が町内で生産されている。豊かな自然環境に惹かれ、創作活動を行ったり、喫茶店やギャラリー、工房を開こうと移住してくる作家や職人も多い。

観光業 観光名所の大雪山国立公園、旭岳、羽衣の滝があり、それらの麓には旭岳温泉と天人峡温泉、そして 13 の温泉宿がある。このほか、キトウシ家族旅行村や市街地を訪れる観光客も多く、年間約 100 万人が訪れる。

〔主な公共施設〕

東川町複合交流施設「せんとびゅあⅠ・Ⅱ」 東川町の「写真文化」「家具デザイン文化」「大雪山文化」を通じた文化活動を中心に、国際交流や日本語学校、住民の自主的な活動など、多様な交流の拠点となる施設として旧東川小学校舎を改修し、2016 年 10 月に「せんとびゅあⅠ」を開設。2018 年 7 月には、旧小学校校庭に図書館でもなく、博物館でもない、自分の居場所のように過ごし交流できる新しいスタイルの複合施設「せんとびゅあⅡ」もオープン。

東川小学校・地域交流センター 平屋で、オープン教室、学童保育機能がある地域交流センターが隣接しているのが特徴で、延長が約 270m。敷地は約 4 ヘクタールあり、周囲に 12 ヘクタールの公園などがある。2014 年 10 月開校。

東川町幼児センター「ももんがの家」 構造改革特区「東川町幼保一元化特区」の認定を受け、2002 年に開園。

道の駅ひがしかわ 道草館 2000 年に商店街の核施設として建設。2004 年に道の駅に認定された。町の中心市街地でインフォメーションセンターと道の駅の 2 つの機能を兼ねる。来館者数は、年間約 50 万人。

〔文化・観光〕

暮らし楽しくフェスティバル キトウシ森林公園が会場の「暮らし楽しくフェスティバル」は毎年春と秋に 1 回ずつ開催。地元農家から野菜や苗が直売されるほか、フリーマーケットゾーンでは手作りの商品から古着や雑貨などバラエティに富んだ商品が売られており、一日いても飽きないイベントとなっている。

旭岳山の祭り 夏山の到来にあたり、登山者と山岳関係者の安全祈願と観光地の繁栄を祈願するお祭り。

東川町国際写真フェスティバル（東川町フォトフェスタ） 「写真の町」の 1 年間の集大成と翌年への新しい出発のための祭典として、毎年夏に開催。写真の町東川白授賞式を中心に、受賞作家作品展やシンポジウム、各種パーティなど、多数のイベントが行われる。

写真甲子園（全国高等学校写真選手権大会） 全国の高校写真部・サークルなどから作品を募集し、高校写真部の全国一を決める大会。

高校生国際交流写真フェスティバル（ユースフェス） 小さな町でも世界中の人びとと触れ合えるように、と次代を担う世界の高校生同士が写真文化を通じて交流を深めることを目的として開催している。

大雪旭岳 SEA TO SUMMIT 人力のみで海から里、そして山頂へと進む中で、自然の循環に思いを巡らせ、かけがえのない自然について考えようという環境スポーツイベント。東川町の恵まれた自然環境を実感でき、参加者同士の絆も深まる魅力的な内容となっている。

天人峡温泉 270mの高さから 7 段で落下する羽衣の滝、渓谷に豪快な水音を響かせる敷島の滝、高さ数百メートルの柱状絶壁等は秘境の名を欲しいままにしている。

旭岳温泉 大雪山縦走コースの基地。原生林と高山植物の中でロープウェイによる気楽な山岳気分満喫、ハイキング、紅葉見学、山岳スキーなど年中楽しめる。

〔宿泊施設〕

天人峡温泉ーしきしま荘 TEL 0166-97-2141

旭岳温泉ーグランドホテル大雪 TEL 0166-97-2211 他 8 軒

キトウシ森林公園ーケビン TEL 0166-82-2632

キトウシ高原ホテル TEL 0166-82-4646

美瑛町 びえいちょう



役場所在地 北海道上川郡美瑛町本町4丁目6番1号
郵便番号 071-0292
電話番号 (0166) 92-1111代表
FAX番号 (0166) 92-4414
市町村コード番号 014591
市町村別類型 III-0
交通機関 富良野線美瑛駅から徒歩3分
ホームページ <https://www.town.biei.hokkaido.jp/>

〔地勢〕

北海道のほぼ中央、上川盆地の南端、大雪山国立公園の西側に位置し、東西44km、南北26km、面積676.78km²の広大な町である。地形は概ね波状丘陵地で、畑の大部分はこの地帯にあり、丘陵の間を縫って流れる美瑛川、置杵牛、辺別川、ルベシベ川、宇莫別川の流域平坦部が水田として利用されている。総面積の70%以上は山林で占められ、町の東南部には十勝岳連峰が連なり町界をなしている。

〔歴史〕

明治26年に植民区画が設定され、美瑛原野と称し、神楽町（現在旭川市）の所轄であったが、翌27年に兵庫県人の移住開墾がなされたのが美瑛の始まりで、明治33年に神楽村から分村、戸長役場が置かれた。その後、農場、牧場を中心として開発され純農村のまちとして発展し、大正11年4月1日に1級町村制施行、昭和15年4月に町制が施行された。戦前戦中を通じ、第7師団陸軍演習場として利用されていた国有地が昭和20年終戦とともに開拓地として海外引揚者などに開放され、戦後の開拓行政が始まり、急速に人口増加を見るに至った。

昭和25年は白金温泉が開湯され、十勝岳（2,077m）の登山、スキーとともに自然をいかした観光地の開発が行われ、農業と観光の町として発展してきた。平成11年には、開基100年記念事業を挙行し、近年は「丘のまちびえい」として多くの観光客が訪れている。

〔町政のあゆみ〕

昭和15年	町制施行	平成9年	四季の情報館落成
〃 17年	国民健康保険組合設立	〃 10年	新町立病院開設
〃 25年	町立病院設置、白金温泉開発	〃 11年	美瑛町開基100年記念式典、美瑛消防署完成、リサイクルプラザ大雪完成、美瑛町老人保健施設「ほの香」開設
〃 38年	町民憲章・町章制定	〃 12年	知的障害者更生施設「美瑛デイセンターすずらん」開設、農業技術研修センター開設
〃 39年	町上水道事業給水開始	〃 13年	生き生きセンター新設
〃 40年	農業構造改善事業基本計画策定	〃 15年	保健センター新設、農業支援センター開設
〃 41年	国立大雪青年の家開所	〃 17年	ふれあい館ラヴニール開設、西美体験交流館開設
〃 45年	緊急開拓事業完成	〃 18年	美瑛町スポーツセンター完成
〃 47年	町開拓記念日を制定	〃 19年	道の駅びえい「丘のくら」オープン、美瑛町南町高齢者福祉住宅完成
〃 48年	ザールバッハ（オーストリア）と姉妹都市締結 層雲峡青少年旅行村オープン	〃 20年	置杵牛農産物加工交流施設オープン
〃 51年	美瑛中統合校舎建設	〃 21年	農産物直売交流施設「ふるさと市場」リニューアルオープン
〃 52年	町民センター建設	〃 22年	町民センター全館リニューアルオープン
〃 55年	保健センター開設	〃 24年	新図書館オープン
〃 57年	公認丸山プール完成	〃 25年	美瑛町西町高齢者福祉住宅完成、美瑛町東京事務所開設、美瑛町東京アンテナショップ「丘のまち美瑛」オープン
〃 59年	観光センター新築落成	〃 26年	北瑛小麦の丘体験交流施設開所、ザールバッハとの姉妹都市解消、定住自立圏構想に基づく協定締結（旭川市ほか周辺8町）
〃 60年	国鉄バス4路線（五稜・置杵牛・千代田・宇莫別）廃止、スクールバス運行開始	〃 27年	「世界で最も美しい村連合会」総会（国際会議）及び「日本で最も美しい村」連合総会開催
〃 61年	国鉄バス白金線廃止、下水処理場通水	〃 28年	白金クレー射撃場、郷土学館、十勝岳望岳台防災シェルターオープン
〃 62年	拓真館開館、美瑛高校校舎落成	〃 29年	丘のまちびえい景観・写真国際フォーラム開催
〃 63年	十勝岳26年ぶりに噴火	〃 30年	道の駅びえい「白金ビルケ」オープン
平成元年	美瑛町開基90周年式典、白金ダム完成	〃 町民プール「丘のまちわいわいプール」、美瑛町農業担い手研修センター「美進」完成	
〃 2年	白金流路工完成	令和元年	白金「青い池」周辺環境整備（売店、トイレ）
〃 3年	ワールドクラシックグランプリ宮様国際スキーマラソン		
〃 4年	青森県岩木町と姉妹都市締結、十勝岳火山砂防情報センター開設		
〃 5年	白金インフォメーションセンター開設		
〃 6年	美瑛町役場庁舎新築落成		
〃 7年	白金インフォメーションセンターが「北海道赤レンガ建設賞」受賞		
〃 8年	どんぐり保育園・子ども通園センター開設、第3次美瑛町総合開発計画策定中高一貫教育スタート		

〔行政施策の重点事項〕

「豊かな自然と個性あふれる文化が輝く丘のまちびえい」を目指して町づくりに取り組んでいる。

- 足腰の強い産業づくり : 基幹産業である農業、林業の振興を図り、経済基盤を強化する。6次産業の振興を図り、農林業・商工業・観光業の連携を促進する。
- ともに支え合うまちづくり : 保健・医療・福祉の連携、相互扶助の意識の醸成を図り、町民が健やかに安心して暮らせる地域福祉の充実を図る。
- まちを動かす人づくり : 国際化、情報化に対応できる知識・技能の習得、コミュニケーション力の養成等に向けた学校教育を促進する。年代や境遇に関係なくいつでも学び参加できる生涯学習環境を整備する。
- 安心・安全なまちづくり : 自然環境と調和した社会基盤の整備と維持管理、防災対策の強化と防災体制の整備等を拡充する。
- みんなで歩むまちづくり : 対話、交流、懇談など多様な手段によって、まちづくりの意向や意見を把握し、施策に反映する。

〔行政管理の特色〕

5か年を基本計画期間とし、行政と住民が、それぞれの責任と分担を果たしていくという意識の下、協働参画による時代に即した行政改革に取り組むべく、第6次美瑛町行政改革大綱を策定。

1. 事務事業（行政が行っている仕事）の見直し

- ・積極的に5S運動に取り組み、日常的な整理整頓によって業務の効率化を図るとともに、町職員としての意識向上につなげる。
- ・単独で長期的に安定した財政基盤の確立を図るため、事務事業の整理統合を行い、広域的に実施することが適当な事務事業は、広域行政への移行を推進する。
- ・民間委託が進んでいない分野については、委託の適正等を含め再検討するとともに、積極的に民間委託を推進し、適正な管理の下、行政運営の効率化と住民サービスの最適化を図る。

2. 行政機構と職員体制の見直し

- ・将来に対応できる行政規模、機構及び適正な職員配置を行うため、数値目標を設定した定員適正化計画を運用するとともに、スタッフ制のメリットを發揮し、職員間の意思疎通を図りながら、事務の効率化を進める。
- ・職員の基礎的な行政遂行能力に基づいた政策形成力等の向上と、多種多様な行政運営に必要な創造力豊かな発想を持った人材の育成、確保、意識改革を図る。

3. 行政の情報化の推進と行政サービスの向上

- ・ホームページ、フェイスブック等を活用して迅速に行政情報を配信するとともに、文書事務及び窓口事務を電子化することにより住民サービスの向上を図る。
- ・自治体クラウドの導入を検討し、ハードウェアやシステムの維持管理費削減につなげる。

4. 住民協働を意識した行政運営

- ・各種団体等による地域住民活動を支援し、まちづくりへの協働事業推進を図る。

5. 公共施設の効果的な管理運営

- ・効率的な施設運営を推進するため、ボランティア、住民自主管理制度の有効活用を検討するとともに、既存施設の機能・役割分担を明確にし、広域的な施設利用と他施設との連携を図る。（第6次美瑛町行政改革大綱実施計画書より抜粋）

〔財政の概況〕

財政規模は町として大きい方であるが、第1次産業が主であるところから、財政力指数は0.223%と自主財源は極めて乏しい。町域面積が広大なことから道路延長と小中学校の数が多く、通年これら道路・教育行政に多額の経費を要し、義務的経費の増嵩も著しいが、近年、行政改革大綱や職員の定数管理などを計画的に実施し、財政運営の安定化を図っている。

〔主な公共施設〕

町立病院、図書館、町民センター、高齢者福祉住宅、福祉センター、保健センター、児童館、どんぐり保育園、運動公園、浄化センター、下水処理場、しらかば清掃センター、道の駅びえい丘のくら、国立大雪青少年交流の家、十勝岳火山砂防情報センター、白金観光拠点施設、四季の情報館、老人保健施設、農業技術研修センター、知的障害者更正施設、ふれあい館ラヴニール、西美体験交流館、美瑛町スポーツセンター、地域人材育成研修交流センター、丘のまち交流館ビ・エール、白金クレール射撃場、郷土学館、十勝岳望岳台防災シェルター、美瑛町町民プール、美瑛町農業担い手研修センター

〔産業・経済〕

農業を基幹産業として栄えてきた町で、経済の大部分は農業生産によって左右されるところが大きい。工業はわずかに木材加工場、食品加工場などの地場産業的なものがあるのみで工業出荷額は63億円程度で、商業は店数107店、売上額141億である。戦後は十勝岳を中心とした観光産業の開発が進められ、農業と観光の町として定着してきた。

- 1. 農 業 畑10,400ha、水田2,250haの耕地があり、米・麦類・馬鈴薯・ビート・豆類及び野菜などあらゆるものが穫れ、農業生産額128億と町経済に占める割合は大きい。農業人口については減少の傾向にある。
- 2. 工 業 木材加工8業者、食品加工2業者、その他2業者

〔文化・観光〕

十勝岳の麓にある白金温泉は、白樺街道、国設野営場、野鳥の森、白樺遊歩道などを有し、道内有数の観光地として知られており、とりわけ白樺街道から見る十勝岳連峰の景観は、格別である。また、昭和62年7月には風景写真家の前田真三氏が活動拠点としてアトリエ「拓真館」を開設し、広大な丘陵を背景とした「丘のまち」として知られ、道内外から多くの人が訪れており、近年では「青い池」が人気となっている。

※十勝岳 主峰2,077mのコニーデ式火山で四つの噴火口から吐き続ける白煙は山岳美とともに大きな魅力である。昭和63年12月16日に26年振りに噴火し、同年5月1日に避難命令が解除されるまでの4か月にわたり避難生活を強いられた。現在は、火山観測機器の整備が進み、防災対策が施されている。

※イベント 6月：ヘルシーマラソン・十勝岳山開き 7月：那智美瑛火祭 7～8月：丘のまちフェスティバル 9月：センチュリーライド（サイクリング）2月：宮様国際スキーマラソン

〔宿泊施設〕

白金温泉一富良野線美瑛駅より20km、白金温泉宿泊施設7軒、民宿・ペンション等44軒、ユースホステル1軒、オーベルジュ等14軒、お問合わせは役場商工観光交流課 TEL (0166) 92-4321、または、美瑛町観光協会 TEL [(0166) 92-4378 へ。

上富良野町 かみふらのちょう



役場所在地 北海道空知郡上富良野町大町2丁目2番11号
郵便番号 071-0596
電話番号 (0167) 45-6400 (総務課)
FAX番号 (0167) 45-5362
市町村コード番号 014605
市町村別類型 III-2
交通機関 富良野線上富良野駅から徒歩15分
ホームページ <https://www.town.kamifurano.hokkaido.jp/>

〔地 勢〕

北海道の中央、富良野盆地の北部を形成し、東に大雪山国立公園十勝岳連峰、西に夕張山系の山々、北は両山脈山麓の三面の山並みに囲まれ、南は盆地の平野部に連担している。山麓の森林に続く高台は標高230m～450mで、東部は壤土、西部は石英粗面岩質の埴壤土からなる畑で、河川流域の平野部は水田で壤土のほか一部に泥流土がある。気候は内陸性で寒暑の差が大きく、米・麦類・甜菜・豆類・馬鈴しょ・ラベンダー・アスパラガス・ホップ・メロンなどを栽培している。

〔歴 史〕

東部の台地には先住民族のいたところを示す遺跡があり、土石器が出土している。安政年間（1854年～1860年）の初め、探検家松田市太郎、松浦武四郎らがこの地を踏査し、明治19年、道庁設置の直後、植民地に選定され牧畜の最適地と認められていた。明治30年に富良野盆地の草分け、三重県団体の入植で開拓の斧と鋤が下され、やがて現在の上富良野と富良野間に鉄道が開通して、急速に人口増加の途をたどり農耕と牧畜の豊かな村として発展し、明治36年に下富良野村（現富良野市）、大正6年には中富良野村を分村、大正8年に1級村制の施行となった。大正15年、十勝岳は世界火山史上に例をみない大爆発を起こし、泥流の山津波は二十数分で30km下の沃野、鉄道、人家を襲い死者144人の大惨事となったが、被災地の田畑は昭和3年には復旧、その後、10余年で9分通りの収穫を得て復旧に成功した。また、戦前は軍用馬の産地としても栄えた。戦後の昭和26年に町制を施行し、昭和30年に陸上自衛隊の演習場設置と部隊駐とんでこれまでの農村中心の町から商業などがめざましく伸長して、現在では農村部、都市部のバランスのとれた町に成長している。

〔町政のあゆみ〕

昭和26年	8月1日町制施行	〃	8年	吹上温泉保養センター白銀荘新築オープン	
〃	33年	町立病院開院	〃	9年	上富良野町開基100年記念式典、津市（三重県）と友好都市提携、軽費老人ホームケアハウスかみふらの開設、開拓記念館新築開館
〃	42年	上富良野町史発行、町民憲章制定			
〃	47年	上水道・日新ダム完成			
〃	49年	地積調査開始	〃	12年	上富良野西小学校改築
〃	52年	町立高等学校が北海道に移管	〃	16年	保健福祉総合センターかみんオープン
〃	53年	郷土館完成開館	〃	20年	富良野広域連合（富良野圏域5市町村）設立、町立病院の療養病床を廃止（小規模老人保健施設を併設）
〃	54年	学校給食センター新築、町立病院改築			
〃	55年	島津公園完成、東中小学校改築			
〃	56年	町花・町木制定	〃	25年	上富良野町観光振興計画スタート、富良野地区定住自立圏形成協定締結（富良野市、上富良野町、中富良野町、占冠村の1市3町1村）
〃	59年	特別養護老人ホーム開設			
〃	60年	カムローズ市（カナダ）と友好都市提携			
〃	62年	社会教育総合センター新築	〃	26年	定住自立圏共生ビジョン策定
〃	63年	開基90年記念式典、十勝岳火山噴火	〃	27年	上富良野小学校改築
平成2年	江幌小学校改築、セントラルプラザ新築、草分防災センター新築	〃	29年	かみふらの120年 上富良野中学校改築	
〃	3年	泉栄防災センター新築、公共下水道浄化センター完成	令和元年	第5回全国ふるさと甲子園「ロケツურიズム賞」において1位を獲得	
〃	4年	デイ・サービスセンター開設	令和2年	交通死亡事故ゼロ4千日達成	
平成7年	武道館新築	令和4年	十勝岳ジオパークが日本ジオパークに認定		

〔行政施策の重点事項〕

「暮らし輝き 交流あふれる 四季彩のまち・かみふらの」を将来像とする第6次総合計画（平成31～令和10年度）に基づき、「協働のまちづくり」「穏やかに安心して暮らせるまちづくり」「人が行き交うまちづくり」の3つの視点を基本に、6つの分野目標のほか、前期5年間において分野横断的に取り組む4つの重点プロジェクトを定め、まちづくりを進めている。

1. 6つの分野目標

- ・ きれいで安全・安心な生活環境のまち
- ・ みんなが元気になる健康・福祉のまち
- ・ 活力と交流あふれる産業のまち
- ・ 未来を拓く人を育む教育・文化のまち
- ・ 発展を支える生活基盤が整ったまち
- ・ とともに生き、ともにつくるまち

2. 4つの重点プロジェクト

- ・ 健康・福祉のまちづくりプロジェクト
- ・ かみふらの産業活性化プロジェクト
- ・ 未来を拓く人財育成プロジェクト
- ・ 地域防災力向上プロジェクト

〔行政管理の特色〕

組織の統廃合と合わせてスタッフ制を導入し、高度化・多様化する行政需要に対応している。また、行政事務のIT化を進め、効率的な行政運営と行政サービスの向上に努めている。さらに、富良野圏域5市町村で広域連合を設置し、消防・学校給食・広域牧場・環境衛生事務について共同処理している。

〔財政の概況〕

地方交付税をはじめ依存財源のウェートが高く、国の地方財政施策に大きく影響を受ける財政構造にある。行財政改革の取組みと地方債の繰上償還などにより、財政指標は改善の方向にある。自主財源を有効活用し、選択と集中により施策の実施にあたっている。

〔主な公共施設〕

町立病院（新施設建設中）、ラベンダーハイツ、保健福祉総合センター、子どもセンター（新施設建設中）、児童館、防災センター、吹上温泉保養センター白銀荘、社会教育総合センター、図書館、公民館、郷土館、開拓記念館、運動公園、武道館、海洋センター、パークゴルフ場、多世代交流センター、セントラルプラザ、農産加工実習施設、日の出公園、オートキャンプ場、クリーンセンター、浄化センター

〔産業・経済〕

1. 農林畜産業 多くの作物が生産される恵まれた土地柄にあり、米作、畑作の優良生産地としての基盤が確立している。規模拡大が進む中で野菜など高生産作物の導入も進んでいる。畜産業では、養豚が盛んで道内有数の生産基地であり、かみふらのポークはブランド豚として知られている。また、林業は民有林の73%が人工林でカラ松材の生産が多い。

2. 工業 企業導入のための低開発地域工業導入地区を設けており、地場資源を活用する食肉加工場、製材木工場のほか、生コン工場、縫製工場、電子部品工場、容器製造工場などがある。

3. 商業 自衛隊駐屯以来、人口増加と宅地化の進展により商店数、売上額とも著しく伸長していたが、近年の人口減少とともに横ばいの状況である。現在では、観光や地元農畜産業と連携した地場製品の開発販促、6次化の取組などを推進している。

〔文化・観光〕

十勝岳温泉 十勝岳は大雪山国立公園にあり、雄大な原始の姿をとどめ四季の景観も変化に富み、特に秋の紅葉は訪れる人々を感動させる。冬は一体が巨大なゲレンデとなり東洋のスイスともいわれ、上質のパウダースノーは山岳スキーヤーの羨望の地である。温泉は標高1,280mの全道一の高山温泉として知られている。

安政太鼓 十勝岳安政火口から命名し、雄峰十勝岳をテーマとした曲を多くもち、郷土芸能として多くの町民に親しまれている。

ラベンダー 真夏に可憐な紫色の花を咲かせる香料作物で、現在は観賞用作物として全国的に多くのファンを持つとともに、「ラベンダー発祥地」としても知られている。

博物館・美術館 町の歴史を伝える公設の「郷土館」、「開拓記念館」のほか、日本画家、後藤純男画伯の「後藤純男美術館」、見て触れて楽しめる「トリックアート美術館」、世界的にも貴重な土の標本を展示し、北海道遺産にも指定されている「土の館」など、多くの博物館、美術館が点在している。

〔宿泊施設〕

凌雲閣 TEL (0167) 39-4111、カミホロ荘 TEL (0167) 45-2970、富良野思惟林 TEL (0167) 45-2225、

吹上温泉保養センター TEL (0167) 45-4126（JR上富良野駅から十勝岳温泉行バス有）、

富良野ホップスホテル TEL (0167) 45-6511、フロンティアフラヌイ温泉 TEL (0167) 45-9779、

その他旅館・ペンション24軒

中富良野町 なかふらのちょう



役場所在地 北海道空知郡中富良野町本町9番1号
郵便番号 071-0795
電話番号 (0167) 44-2122 (総務課)
FAX番号 (0167) 44-2127
市町村コード番号 014613
市町村別類型 II-0
交通機関 富良野線中富良野駅から徒歩3分
ホームページ <https://www.town.nakafurano.lg.jp/>

〔地 勢〕

町の中心部は平地で、東北から南西に向かって緩やかな傾斜を持ち、丘陵部は畑地帯、平坦部は水田地帯である。東方に国立公園大雪山系十勝岳を主峰とする富良野岳、西方には道立自然公園の芦別岳を主峰とする夕張山脈が南北に縦走している。

〔歴 史〕

町の開拓は、明治28年に伊藤喜太郎氏、翌29年に上村卯之助氏が単身移住開墾に従事し、同年、植民地として区画設定され、明治31年に石川県より20数戸、福井県より33戸が特定地の貸付けを受けて移住したのに始まり、続いて東9線方面及び福原、伊藤、鹿討等の各農場に入地、開発の緒についたが、当時市街地における戸数はわずか2戸で、四面はうっ蒼たる森林をなし猛熊・狐・狸の巣窟で昼なお暗い状態であった。開拓当時は、空知支庁管内歌志内村に所轄、中富良野と称し、明治32年6月上川支庁所轄となり、富良野村戸長役場設置によりその管轄に属したが、明治36年7月富良野村、上富良野村に分割、上富良野村と改称、戸長制度であったが、明治39年4月に2級町村制となり、この間、明治33年鉄道開通により交通の便も開け、戸口漸次増殖、開拓の実著しく進展、大正6年4月に上富良野村から分離して中富良野村が誕生した。大正9年に芦別村の一部(奈江)を合併、次いで大正12年4月、1級町村制が実施され、更に昭和9年4月富良野町と一部(富間)境界を変更した。

こうした歴史の中で、地勢的及び気象的条件に適した水稲栽培が主産業として伸長し、名実ともに北海道の穀倉地帯としての役割を果たし、昭和39年5月には町制を施行し、中富良野町として新しい歩みを行っている。

〔町政のあゆみ〕

昭和41年	消防庁舎落成、町体育館(現公民館)完成 集中豪雨大被害	〃	62年	防災行政無線施設完成	
〃	42年	町指定金融機関制度採用、富良野・中富良野学校給食組合発足	〃	63年	中富良野中学校講堂完成
〃	43年	4市町村衛生処理組合発足	平成元年	町郷土館完成	
〃	44年	児童館落成、広域市町村圏の指定	〃	2年	町立病院増改築
〃	45年	町立病院新築、米の生産調整深刻化	〃	4年	本幸小学校完成
〃	46年	過疎地域指定、上川南部消防事務組合発足、町営バス運行、電話自動化	〃	7年	開基100年記念、こぶし苑完成
〃	47年	町民研修センター完成	〃	10年	旭中小学校講堂完成
〃	52年	常陸宮妃殿下御来町	〃	11年	南中小学校 〃
〃	53年	中富良野小学校完成、森林公園開園	〃	12年	西中小学校 〃
〃	54年	町民憲章制定、森善治氏全国初十選	〃	13年	宇文小学校 〃
〃	55年	中富良野中学校完成	〃	14年	総合スポーツセンター完成
〃	56年	老人福祉センター完成、第2期中富良野町総合開発計画策定	〃	24年	西山火葬場完成
〃	57年	西中小学校完成、コミュニティ広場完成	〃	25年	上富良野町観光振興計画スタート、富良野地区定住自立圏形成協定締結(富良野市、上富良野町、中富良野町、占冠村の1市3町1村)
〃	58年	役場、消防庁舎、改善センター完成	〃	26年	定住自立圏共生ビジョン策定、ふれあいセンターなかまーる完成
〃	59年	旭中小学校完成	〃	27年	秋田県美郷町と連携協力協定締結
〃	60年	宇文小学校完成、運動公園広場完成	令和4年	東京都豊島区と「としまぐらし&ナカフライフ相互交流宣言」	
昭和61年	南中小学校完成				

〔行政施策の重点事項〕

「絆でつながる 田園空間 なかふらの」を将来像とする第6期中富良野のまちづくり総合計画に基づき、「新たな活力と人の流れを生み出すまち、多くの人々の絆が心を通わせ、支え合い、協力し合うまち、一人ひとりが幸福で希望に満ちた人生を送ることが実感できるまち」の実現に向けて、6つの政策目標を定め、まちづくりを進めている。

1. 子育てしやすく健康で安心して暮らせるまち～子育て支援、保健・医療、高齢者支援、障がい者支援、国民健康保険
2. 活力あふれる人材を育てるまち～農林業、商工業、観光・交流、雇用対策、消費者対策
3. 心豊かな人と文化を育むまち～学校教育、社会教育、文化芸術・文化財、スポーツ
4. 自然と共生する美しく安全なまち～環境・景観・エネルギー、ごみ処理等環境衛生、上・下水道、消防・救急・防災・防犯
5. さらなる発展への生活環境をつくるまち～土地利用、住宅、定住・移住、道路・公共交通、情報化・技術革新
6. みんながつながるまち～地域間交流、人権尊重・男女共同参画、コミュニティ、町民参画・協働、自治体経営

〔行政管理の特色〕

昭和44年度に広域市町村圏の指定、また、昭和46年度に過疎地域の指定を受け、振興計画の樹立に対応するほか産業振興対策の一環として、米の生産地形成の推進を図るため、昭和44年より農業基盤の整備事業の促進を強力に進め、平成21年より国営農地再編整備事業が着手された。広域行政については、富良野地区定住自立圏形成協定を中心に、富良野広域連合などを設立し、その効果をあげている。

〔主な公共施設〕

1. 森林公園、北星山スキー場等は肥沃な富良野平原を一望し、目の当たりに十勝、大雪の連山を眼下に見おろすことができる北星山にある。

2. その他ふれあいセンターなかまーる、球場、テニスコート、改善センター、勤労者会館、コミュニティ広場、郷土館、町営パークゴルフ場、フラワーパーク、総合スポーツセンター

〔産業・経済〕

米作・畑作を中心とする第1次産業を主産業とする純農村で、第2次産業として見るべきものがなく、第3次産業の商店が町民日用雑貨を販売している程度と、農業協同組合組織が産業、経済面で町民に大きく働いている。しかし、第2次産業の人口は、第1次産業に比較し低く、本町の純農村体質からは今後においても容易に人口増は望めない状態である。

1. 農林業 十勝岳の麓に広がる肥沃な土地と豊富な水に恵まれた環境で、昭和63年より安心・安全な米づくりを目指して試行し、平成5年度よりクリーン米生産協議会を設立。また、畑作についても、多種多様な農産物を生産している。

2. 商工業 近年、ラベンダー園・宿泊業等の観光に係わる分野が伸びてきている。しかし、町内の小売業については、同一商圏の大型店舗の影響で低迷が続いている。

〔文化・観光〕

北星山 丘一面を彩る町営ラベンダー園と、眼下に広がるおおらかな田園風景、十勝岳連峰のパノラマを楽しむことができる。

ラベンダー・ファーム 真夏（7月下旬）には可憐な紫色の花を咲かせる、香料作物。最盛期には紫のじゅうたんを敷きつめたかのような光景に魅了された人々が毎年訪れている。

なかふらのラベンダーまつり 7月中頃。夏の夜空に広がる迫力満点の花火大会が有名で、毎年多くの観客が訪れる。

〔宿泊施設〕

なかふらのinn 本町3番1号 TEL (0167) 56-7856

ペンションやま山 基線北13号 TEL (0167) 44-2337 FAX (0167) 44-2338

ペンションラクレット 基線北14号 TEL (0167) 44-4511 FAX (0167) 44-4531

小さな民宿 きたぼし 西1線北16号 TEL (0167) 44-2992 FAX (0167) 44-2992

富良野リゾートホテル オリカ 西2線北17号 TEL (0167) 44-3000 FAX (0167) 44-4266

FURANO HOSTEL 丘町3番20号 TEL (0167) 44-4441

ペンション&レストラン 自然舎 鹿討農場 TEL (0167) 44-2229 FAX (0167) 44-2555

ファームイン富夢(トム) 東4線北14号 TEL (0167) 44-3770 FAX (0167) 44-3750

ログ・コテージひまわり 西1線北14号 TEL (0167) 44-4408 FAX (0167) 44-4408

スパ&ホテルリゾート ふらのラテール 東1線北18号 TEL (0167) 39-3100 FAX (0167) 39-3322

ペンション&レストラン ラ・コリーナ 鹿討農場 TEL (0167) 44-3957 FAX (0167) 44-3647

四季の宿 K I Z U N A 西2線北19号 TEL (0167) 44-4770 FAX (0167) 44-4770

どこか農場 東9線北13号 TEL (0167) 44-4277 FAX (0167) 44-4277

夕茜舎(あかねやど) ベベルイ TEL (0167) 44-4177 FAX (0167) 44-4177

プチホテル ブランネージュ 東1線北18号 TEL (0167) 44-4433 FAX (0167) 44-4423

コテージ楓 東1線北15号 TEL (0167) 44-2233

星に手のとどく丘キャンプ場 ベベルイ TEL (090) 1302-1422 FAX (0167) 44-2952

オーベルジュ エルバステラ 鹿討農場 TEL (0167) 44-3671 FAX (0167) 44-3672

ノーザンスターロッジ 西1線北14号 TEL (0167) 44-2081

バンガローヴィレッジシュエット 東1線北20号 TEL (080) 8288-1854

ゲストハウス トコトコ 西1線北14号 TEL (0167) 44-4255 FAX (0167) 44-4255

南富良野町

みなみふらのちょう



役場所在地 北海道空知郡南富良野町字幾寅867番地
郵便番号 079-2402
電話番号 (0167) 52-2112 (総務課)
FAX番号 (0167) 52-2922
市町村コード番号 014621
市町村別類型 I-0
交通機関 都市間バス、ふらのバス 「道の駅みなみふらの」から徒歩10分
ホームページ <https://www.town.minamifurano.hokkaido.jp/>

〔地勢〕

北海道のほぼ中央のところに665.54km²の面積をもつ南富良野町は、東西に貫流する空知川に沿って集落がいくつかに分かれて形づくられている。四方が山並みに囲まれ、その大部分はうっそうとした森林であるが、川沿いの平地は農耕地となっており、さらに、まちの中間には金山ダムによってできた人造湖—かなやま湖が水を湛えている。

〔歴史〕

明治24年に砂金採取者が日高山脈を越えて金山に入り、炊煙をみたのが人跡を印した最初といわれ、明治33年、空知川上流に植民区画が設定された。

明治33年4月、三重県人木田幸次郎を団長とする40戸が伊勢団体に入植した。明治34年9月に下富良野—落合間鉄道開通、明治36年に下富良野戸長役場が下富良野に置かれ、明治41年に下富良野村より分離、南富良野村外1ヶ村戸長役場を創設、大正8年4月、2級町村制施行により南富良野村占冠村組合役場が設置された。

昭和7年に南富良野村占冠村組合役場を分離、単独村となる。昭和28年5月、北海道開発局において金山ダム建設計画に伴う対象地域の調査が開始された。昭和37年3月に土地買収及び損失補償の基本協定及び細目協定の調印、昭和42年3月に金山ダム湛水開始、同年6月に竣工式が挙行され、同年4月には町制も施行となり、南富良野町として新しい歩みをはじめており、平成2年には開基100年を迎え南富良野町の二世紀に向けて明るく住みよい活力と希望に溢れたまちづくりを目指している。

〔町政のあゆみ〕

昭和41年	鹿越小学校廃校	平成11年	下水道一部（幾寅処理区）供用開始
〃 42年	金山ダム湛水開始、町制施行	〃 12年	東鹿越小学校廃校
〃 43年	全町字名・地番改正	〃 14年	高齢者生活福祉センター「くるみ園」開設
〃 44年	幾寅・金山診療所建設	〃 15年	一般廃棄物最終処分場完成、高齢者対応公営住宅建設
〃 45年	下金山簡易水道給水開始	〃 17年	落合中学校・幾寅中学校・金山中学校・下金山中学校を閉校し南富良野中学校に統合
〃 46年	落合診療所建設	〃 18年	保健福祉センター「みなくる」開設
〃 48年	巡回窓口車「やまびこ号」運行	〃 20年	特別養護老人ホーム「ふくしあ」開設、富良野広域連合設立
〃 49年	幾寅・金山常設保育所開設、富良野地区消防組合設立	〃 22年	特別養護老人ホーム経営移譲
〃 50年	学校完全給食開始	〃 23年	南富良野町中学校新校舎建設
〃 51年	幾寅・金山局電話自動化	〃 24年	T V h 中継局開設
〃 52年	総合福祉センター建設	〃 25年	南富良野町第5次総合計画策定、富良野地区定住自立圏形成協定締結（富良野市、上富良野町、中富良野町、占冠村の1市3町1村）
〃 53年	特別養護老人ホーム建設	〃 26年	定住自立圏共生ビジョン策定、北落合小学校・落合中学校・幾寅小学校を閉校し南富良野小学校に統合
〃 54年	南富良野高等学校校舎建設	〃 27年	金山地区福祉交流センター開設
〃 55年	国設南富良野スキー場開設	〃 28年	台風10号の大雨により空知川の堤防が決壊し、幾寅市街地の約3分の1が浸水により被災
〃 56年	精神薄弱者更正施設「からまつ園」開設	〃 29年	金山小学校・下金山小学校を閉校し南富良野西小学校に統合、町制施行50周年記念式典開催
〃 57年	かなやま湖森林公園、保養センター開設	〃 30年	南富良野町イメージキャラクター「南ちゃん」お披露目
〃 58年	山村広場開設、HTB、UHB中継局開設	令和元年	ファミリーサポートセンター開設
〃 60年	かなやま湖研修センター開設	〃 2年	道の駅「南ふらの」重点道の駅に選定
〃 61年	町内循環バス運行開始	〃 3年	道の駅「南ふらの」再編整備 工事着手
〃 63年	南富良野町物産センター建設、国体カヌーリハーサル大会開催		
平成元年	精神薄弱者授産施設「こざくら園」開設、第44回国民体育大会カヌー競技開催		
〃 2年	町民憲章制定、開基100年記念式典開催		
〃 4年	南富良野情報プラザ開設		
〃 6年	かなやま湖ログホテルラーチ開設		
〃 8年	在宅老人デイサービスセンター・在宅介護支援センター開設、沖縄県本部町と「友好の町」盟約調印		

〔行政施策の重点事項〕

令和5年度にスタートした第6次総合計画の将来像「地域の自然を活かし 協働と共創で築くまち 南富良野」の実現に向けて、町民と行政が連携・協働し、分野別基本目標と重点政策を定め、まちづくりを進めている。

1. 分野別基本目標
 - ・ 地域特性を活かして活力あるまち【産業分野】
 - ・ 健康で安心して生活できるまち【保健・医療・福祉分野】
 - ・ 災害に強く快適で住みよいまち【生活基盤・生活環境分野】
 - ・ 豊かな学びと生きがいを実感できるまち【教育・スポーツ・文化分野】
 - ・ 町民と行政がともに歩むまち【住民協働・行財政分野】
2. 重点政策
 - ・ 人口減少対策への取組
 - ・ 農林業と商工・観光など 地域産業の発展に向けた取組の推進
 - ・ 共創の実現に向けたコミュニケーションの強化
 - ・ 地域公共交通体系の構築
 - ・ 防災体制の強化と地域防災力の向上
 - ・ 教育環境や福祉
 - ・ 子育て環境の充実・ 未来へつなぐ人材の育成

〔行政管理の特色〕

町の構成は広範囲に6つの地区からなっており、この地理的条件に起因する住民の不便を解消するため、巡回窓口車「やまびこ号」を定期的に運行していたが、人口減少に伴い廃止し、各地区の郵便局及び簡易郵便局と連携し、公金の収納及び住民票の写し、印鑑登録証明書、所得証明書などの交付ができるよう整備をし、住民サービスの利便を図り、地域住民からも好評を得ている。

〔財政の概況〕

令和5年度に策定した第6次総合計画を基本に、行財政改革などに伴う最近の社会経済情勢の極めて厳しい条件を考慮しながら、健全財政を堅持しつつ積極的かつ重点的に各種事業の推進に取り組んでいる。

〔主な公共施設〕

1. 保健福祉センター 文化の振興と福祉の増進を目的として建設され、近代整備が整い、町の文化の中心的施設として各種行催事に利用されている。
2. その他 金山地区コミュニティセンター、かなやま湖保養センター、除雪管理センター、保育所、地域包括支援センター、デイサービスセンター、かなやま湖スポーツ研修センター、国設南ふらのスキー場、南富良野物産センター、落合地区多目的センター、下金山地区多目的センター、老人憩の家、勤労青少年センター、南富良野情報プラザ、南ふらの農産物処理加工センター、空知川スポーツリンクス、高齢者生活福祉センター

〔産業・経済〕

本町は、金山ダムが昭和42年に完成し、人口が急減したため、今後再び大きな人口流出をみることがないものと推測され、ダム建設によって一変した町勢の現状を克服して豊かな住民生活を営むための理念に基づいた地域社会を形成する必要がある。

1. 農林業

- ・ 農業については、昼夜の温度差の大きい山間部特有の気象条件の下で、にんじん、そば、ばれいしょ、麦類などが主に生産されており、中でも、種子ばれいしょの生産が盛んであり良品で知られている。標高の高さを活かした「そば」の栽培は、質・生産量ともに定評があり、根菜類の連作障害防止にも役立っている。また、にんじんは全道有数の産地となっている。
- ・ 林業については、町土の9割が山林に区分されており、人工林資源は成熟期を迎えつつあることから、森林の育成から持続的な利用の時期に入ってきている。

2. 商工業

- ・ 豊かな山林資源の活用と木材産業の振興、需要度の高い石灰石の生産性増高、かなやま湖を中心とした観光開発など、本町の特性を生かした産業の振興を図る。

〔文化・観光〕

かなやま湖森林公園 眼前にかなやま湖が広がり豊かな自然環境の中かなやま湖保養センターやラベンダー園が整備され、隣接するキャンプ場、オートキャンプ場、かなやま湖ログホテル村と合わせて自然とふれ合いながら楽しめるレクリエーション施設として利用者が多い。

狩勝峠 標高 1,059m 佐幌岳の山腹を横断する峠で石狩と十勝の境にある。眼前には十勝の大平原が広がり、雄大な展望美を誇っている。

落合岳 狩勝峠と向かい合い北に十勝大雪連峰、東に十勝平野、阿寒連峰、西に芦別、夕張岳など 360° の展望が楽しめる。

〔宿泊施設〕

幾寅市街一民宿岩本、フェアフィールド・バイ・マリオット・北海道南富良野

落合市街—どんころ野外学校

東鹿越—かなやま湖保養センター（定員 59 名）、かなやま湖ログホテル村（定員 91 名）

占冠村 しむかっぶむら



役場所在地 北海道勇払郡占冠村字中央
郵便番号 079-2201
電話番号 (0167) 56-2121
FAX番号 (0167) 56-2184
市町村コード番号 014630
市町村別類型 I-2
交通機関 JR石勝線占冠駅からバスで1分
ホームページ <https://www.vill.shimokappu.lg.jp/>

〔地勢〕

日高、夕張の二大山脈にはさまれた盆地で、上川管内の最南端に位置し、総面積 571.31 km²の約 94%が山林で占められている。また、鶴川流域、双珠別川流域の地味肥沃な海拔 300m~700mの地帯に農耕地が散在し、適地適作に基づき畑作、酪農、肉用牛を中心とした農業が営まれている。

気候は、山岳地帯であることから気温の年較差が大きく、冬期間は-30℃以下になることもある。

〔歴史〕

明治 33 年に植民地区画が設定され、明治 35 年に日陰長松が入植したのが始まりで、その後静岡県、岩手県などから団体入植が行われた。大正 8 年、2 級町村制施行により南富良野村と組合役場を幾寅に設置し、昭和 7 年の分村で占冠村となった。

開村以来、農業、林業を基幹産業として発展してきたが、昭和 40 年に入ってから離農離村により過疎化が進み、昭和 56 年には人口 1,432 人と道内で最も人口の少ない村となった。

「陸の孤島」と言われたほど交通事情の不便な地であったが、昭和 56 年の石勝線の開通や、主要国道・道道の整備に加え、平成 21 年の道東自動車道開通など、交通条件は大きく改善された。昭和 57 年 9 月に大型観光開発である「石勝高原総合レクリエーション施設」の建設が民間主導により着手され、翌 58 年から営業が開始された。リゾート開発の振興に伴い、平成 2 年の国勢調査では 2,721 人と人口が大幅に増加したが、バブル経済の崩壊による不況はリゾート開発の進行にも大きく影響を及ぼし、平成 27 年国勢調査では 1,211 人となっている。

〔村政のあゆみ〕

明治 13 年	勇払郡各村戸役場に属す	平成 14 年	占冠村開基 100 年、デイサービスセンター完成
大正 8 年	南富良野村の組合役場を幾寅に設置	〃 16 年	南富良野町との合併協議会設置
昭和 7 年	南富良野村から分離独立	〃 17 年	南富良野町との合併協議会を廃止
〃 9 年	トマム～占冠間道路開通	〃 19 年	道東自動車道トマム IC～十勝清水 IC 間開通
〃 23 年	トマムに役場支所設置	〃 20 年	占冠村歯科診療所開所、村立占冠診療所開所
〃 37 年	開村以来の大水害	〃 21 年	第 5 回日本・太平洋諸島フォーラム首脳会議開催、道東自動車道占冠 IC～トマム IC 間開通
〃 47 年	総合センター完成	〃 23 年	道東自動車道占冠 IC～夕張 IC 間開通
〃 53 年	農業者センター完成	〃 24 年	ジビエ工房森の恵み完成、湯の沢温泉リニューアルオープン
〃 56 年	JR 石勝線 10 月 1 日に営業開始	〃 25 年	上富良野町観光振興計画スタート、富良野地区定住自立圏形成協定締結（富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村の 1 市 3 町 1 村）
〃 58 年	石勝高原総合レク施設営業開始	〃 26 年	定住自立圏共生ビジョン策定
〃 59 年	ニニウ自然の国営業開始	〃 27 年	小規模多機能型居宅介護施設「とまーる」開所
〃 62 年	トマムコミュニティセンター完成	〃 29 年	トマム給油所開所
平成元年	村立トマム診療所完成	〃 30 年	クラブメッド北海道トマムがオープン
〃 2 年	ヘリポート完成	令和 2 年	占冠保育所新築
〃 3 年	アスペン市と姉妹都市提携		
〃 4 年	トマムへき地保育所開所		
〃 6 年	コミュニティプラザ完成		
〃 7 年	生活情報センターホール・ショッピングモール完成、国際環境観光会議開催		

〔行政施策の重点事項〕

平成 31 年に策定した「占冠村総合計画」に基づき、『生まれてよかった』、『育ってよかった』、『暮らしてよかった』そして住み続けたいと思える村づくりを進めている。

1. 持続可能な地域づくり

住民ニーズを的確かつ迅速に反映できる自治を推進するために、持続可能な地域づくりをめざす。

次代へつなぐ持続可能な地域の産業づくりに向け、農林業、観光振興施策等を推進するとともに、地域資源を生かした 6 次産業化や再生可能エネルギーの活用をめざす。

持続可能な地域社会の実現のために、健全な財政運営、各種情報の収集・分析、集落対策などの地域振興施策を総合的に進める。

2. 安全で安心な暮らしを守る基盤づくり

村民が安全で安心な暮らしを続けられるよう、生活基盤の整備や医療・福祉の充実を進める。

村民が、安心して快適に住み続けられるよう、道路や上下水道等の生活インフラの維持・整備を進めるとともに、交通安全・防犯などの生活の安全確保を図る。

村民が安心して暮らし続けるために、保健・医療体制の維持充実を進めます。また、高齢者や障がい者などが住み慣れた地

域で住み続けられるよう福祉・介護サービスの充実を図るとともに、トランスジェンダーや性同一障がいなど多様な価値観・特性を持つ人々がいきいきと暮らせる共生社会をめざす。

3. 未来を託す子育て・多様な学びの推進

子どもを安心して生み育てられる子育て環境づくりを進めるとともに、多様な価値観の中で、柔軟かつしなやかに自らの進む道を見つけ、人生を切り拓いていくことができる人材の育成をめざす。

〔行政管理の特色〕

福祉施策の充実や、村民の生活環境整備のための事業など、行政範囲と事務量は年々増加の傾向にあるが、最小の経費で最大の効果を生み出そうと、人件費を最小限にとどめ、事務処理体制や機構等に検討が加えられている。

また、遠隔地には支所が設置されており、きめ細かい行政サービスに努めている。

〔財政の概況〕

歳入は地方交付税が約54%を占め、村税約16%となっており、地方交付税の占める割合が高い。歳出は住民生活の向上と福祉のため各分野に効果的に配分し、収支の均衡を維持するよう努めている。

〔主な公共施設〕

1. 総合センター 役場事務所、教育委員会、議会が併設された施設である。

2. その他 トナムコミュニティセンター、住民センター、運動公園（野球場、テニスコート等）、村営プール、村営スキー場、勤労者福祉会館、総合グラウンド、物産館、ヘリポート、消防庁舎、保育所、コミュニティプラザ、道の駅自然体感じむかつぶ（生活情報センター、ショッピングモール）、双民館（研修施設）、占冠地域交流館、占冠村保健福祉センター「ノンノ」、占冠診療所、トナム診療所、歯科診療所、トナム給油所、小規模多機能型居宅介護施設「とまーる」

〔産業・経済〕

1. 農業 畑作、酪農、肉牛を中心に新規就農者の参入促進や後継者対策を進めている。

2. 商工業 商業は小売業が主でその規模は小さい。村内の雇用の拡大と商工業振興を図るための制度を取り入れ企業誘致に努めている。

〔文化・観光〕

1. 村立自然公園赤岩青巖峡 鶴川の澄んだ流れに映える美しい風景であり、春はつつじ、しゃくなげ、夏は深緑、秋は紅葉、冬は水墨画を想う自然美が四季折々堪能できる。

2. トナムリゾート スキー場、テニスコート、大型造波プールなど、ありとあらゆるリラクゼーション施設を完備した大規模リゾート。自然と触れ合う体験メニューも多数用意されている。

〔宿泊施設〕

・占冠湯の沢温泉 森の四季	定員 50名	TEL0167-56-2311
・ザ・タワー	401室	TEL0167-58-1111
・リゾナーレトナム	200室	〃
・クラブメッド 北海道トナム	341室	TEL03-4510-8458